

# 平成19年度品種比較試験結果

この試験は、市販されている飼料作物品種の中から岐阜県の奨励品種選定の基礎資料を得るために行っています。試験結果は、以下のとおりでした。

## <イタリアンライグラス>

ワセアオバ（県の奨励品種）といなずま、はたあおば、ナガハヒカリ、普通種を比較したところ、単年度の成績は、倒伏及び乾物収量で差がなかった。3年間の平均値の比較では、いなずまはワセアオバと同等の成績であった。

## <トウモロコシ>

早生・中生各5品種を県の奨励品種(セシリア、32K61)と比較したところ、単年度の成績は、早生の34B39及び中生の31P41が抗病性及び収量で優れていた。2年間の平均値の比較では、早生の34B39及び SH4681が有望と思われた。

## イタリアンライグラス

### 1. 方法

- (1) 早生 3 品種（奨励品種のワセアオバを含む）、中生 1 品種と県内で最も需要のある「普通種」を用いた。供試期間は 2 年又は 3 年目である。
- (2) 区画の大きさは、2.4m × 2.5m で 4 反復を設けた。
- (3) 種子は、平成 18 年 9 月 27 日に a 当たり 0.3kg を散播した。
- (4) 肥料は、尿素を用いた。基肥は、a 当たり窒素で 1.0kg 施肥した。追肥は、春先の 4 月に窒素で 0.8kg、1 番草後に窒素で 0.5kg、2 番草後に窒素で 0.3kg を施肥した。
- (5) 収量調査は、3 番草まで実施した。

### 2. 結果の概要

- (1) 気象は、主たる生育期間である平成 18 年 10 月から平成 19 年 6 月を記述した。期間中の平均気温は、平年より 0.8 度低かった。1 月及び 2 月は高かったものの 3 月以降は 1.1 ~ 2.5 度低かった。降水量は、期間中で平年より 10% 少なく、4 月が 73mm、10 月が 95mm 少なかった。日照時間は、期間で平年より 175 時間長く、5 月が 67 時間、6 月が 56 時間長かった。
- (2) 単年度成績は、奨励品種のワセアオバと 4 品種を比較すると、ナガハヒカリは、発芽が悪く草丈は長く、普通種は草丈が短かった。耐倒伏性及び乾物収量は差がなかった。
- (3) いなずまは、3 年間の成績によると耐倒伏性、草丈及び乾物収量がワセアオバと差が無かった。

表1 生育・収量調査結果

品種名	番	草	発	芽	定	着	出穂始	刈取日	倒	伏	草	丈	乾物率	乾	物	収	量
			良	否	草	勢	月日	月日	9~1		cm		%			kg/a	
ワセアオバ	1		7.8		7.0		5/4	5/10	9.0		104.8		19.0			64.1	
	2							6/11	4.0		87.1		18.2			40.0	
	3							7/9	1.0		80.3		17.1			19.9	
	計・平均										90.7		18.1			124.0	
いなずま	1		7.0		7.0		5/4	5/10	9.0		118.4		19.6			60.3	
	2							6/11	2.1		89.3		17.8			38.9	
	3							7/9	1.0		76.9		16.7			14.2	
	計・平均										94.9		18.0			113.4	
はたあおば	1		7.3		6.0		5/4	5/10	9.0		122.0		18.5			68.9	
	2							6/11	1.0		89.5		17.6			36.9	
	3							7/9	1.0		74.4		15.7			16.0	
	計・平均										95.3		17.3			121.8	
ナガハヒカリ	1		6.5		6.5		5/9	5/10	9.0		116.2		16.9			70.6	
	2							6/11	3.0		97.7		14.3			48.3	
	3							7/9	1.0		86.8		13.9			22.9	
	計・平均										100.2		15.0			141.8	
普通種	1		7.8		6.8		5/9	5/10	9.0		98.2		20.0			64.4	
	2							6/11	1.0		74.8		16.2			35.7	
	3							7/9	1.0		69.3		15.7			15.8	
	計・平均										80.8		17.3			115.9	

注：反復数は各品種とも4、

同列比較でワセアオバとの間に1%水準( )、5%水準( )で有意差あり

表2 いなずまとワセアオバの比較(3年間の平均値)

品種名	発	芽	定	着	倒	伏	草	丈	乾	物	収	量
	良	否	草	勢	9~1		cm				kg/a	
いなずま	7.1 ± 0.2		6.7 ± 0.4		4.7 ± 0.7		93 ± 5		147 ± 32			
ワセアオバ	7.5 ± 0.3		6.9 ± 0.1		5.4 ± 1.8		92 ± 2		152 ± 25			

## トウモロコシ

### 1. 方法

(1) 供試品種数は、早生が6品種(奨励品種のセシリアを含む)、中生が6品種(奨励品種の32K61を含む)の計12とした。相対熟度(RM)の範囲は、早生が100~115、中生が116~124とした。なお、収穫期判定用として36B08(RM106)を番外に播種した。供試品種は2年目の供試である。

(2) 試験区の大きさは、10 m<sup>2</sup> (2.5 × 4.0 m) とし、各品種とも3反復とした。

(3) 播種は、4月27日に行った。

(4) 栽植本数は、10a 当たり早生が7,000本(畦幅70 cm × 株幅20 cm)、中生が6,500本(畦幅70 cm × 株幅22 cm)とし2粒点播した。その後、生育途中で1本に間引きした。

(5) 肥料は、基肥としてa当たり堆肥 200kg を施用した。追肥は、5月15日に化成肥料(N-P-K=14-14-14)を各成分で0.6kgと6月1日に尿素を窒素成分で0.9kg施用した。

(6) 播種直後に土壌処理剤を散布した後に、防鳥網と電気牧柵を設置した。

(7) 調査項目は、発芽状況、初期生育、絹糸抽出日数、病害、稈長、着雌穂高、有効雌穂割合、乾物重とした。

## 2. 結果の概要

(1) 主たる生育期間の平成19年5月から同年8月の気象は、低温、7月の多雨と8月の小雨であった。月別平均気温は、各月が平年を下回り、期間で1.7℃低かった。降水量は期間で平年並みであったが、7月が平年より138mm多く8月が93mm少なかった。日照時間は期間で平年より165時間長かった。5月、6月及び8月が長く、7月が短かった。

(2) 発芽は、ゆめそだちが悪かった。

(3) 初期生育は、低温のため全品種が不良であった。

(4) 稈長は早生257cm、中生266cmで、茎葉と雌穂を合わせた乾物重量は、早生、中生ともに2.1t/10aであった。

(5) 病害を加味した成績は、早生の34B39、中生の31P41が奨励品種以上であった。

(6) 2年間の成績は、ゴマ葉枯病を除き品種間に差がなかった。34B39、SH4681は、耐病性及び収量で期待できる。33Y45は、収量は期待できるがゴマ葉枯病がひどかった。

表3 生育・収量調査結果

品種名	初期生育	絹糸抽出日数	病 害		着雌穂高	有効雌穂割合	乾 物 重		
			ゴマ葉枯病	稈長			茎葉	雌穂	合計
	9~1日	日	9段階	cm	cm	%	kg/a	kg/a	kg/a
34B39	6.7	83.7	3.3	278.2	131.0	96.0	112.6	119.3	231.9
NS115	6.7	83.0	2.3	250.4	119.8	98.4	91.3	99.8	191.1
SH4681	6.7	82.7	6.3	273.4	122.2	100.0	101.0	114.5	215.4
34N84	7.3	77.7	5.0	226.6	109.2	100.0	105.4	104.3	209.7
<b>セイア</b>	<b>7.7</b>	<b>83.7</b>	<b>6.3</b>	<b>262.5</b>	<b>133.5</b>	<b>91.6</b>	<b>96.8</b>	<b>106.6</b>	<b>203.4</b>
ゆめそだち	7.3	81.7	3.0	250.2	112.0	95.8	86.6	98.5	185.1
早生平均	7.1	82.1	4.4	256.9	121.3	97.0	99.0	107.2	206.1
TX125	6.3	89.0	3.0	256.8	119.4	77.5	107.4	94.9	202.3
31P41	7.3	84.0	6.3	265.8	127.0	93.2	112.4	123.1	235.5
33Y45	6.3	86.7	8.7	284.2	133.7	91.4	107.8	116.5	224.3
Zcorn118	7.0	85.3	5.0	268.0	125.0	87.7	96.8	111.2	207.9
<b>32K61</b>	<b>7.0</b>	<b>86.7</b>	<b>7.0</b>	<b>275.3</b>	<b>120.3</b>	<b>96.4</b>	<b>105.3</b>	<b>120.3</b>	<b>225.7</b>
ゆめそだち	6.3	87.0	4.0	247.2	115.7	96.3	76.5	111.5	188.0
中生平均	6.7	86.4	5.7	266.2	123.5	90.4	101.0	112.9	211.5

注: 早生、中生とも同列比較で奨励品種との間に1%水準( ), 5%水準( )で有意差あり

表4 品種間の比較（2年間の平均値）

品種名	初期生育	ゴマ葉 枯病	稈長	雌穂重 割合	乾物 収量	T D N 収量
	9~1	9段階	cm	%	kg/a	kg/a
34B39	5.7 ± 1.4	4.0 ± 1.0	225 ± 75	57 ± 7	164 ± 97	119 ± 68
SH4681	6.4 ± 0.5	6.3 ± 0.0	232 ± 58	58 ± 7	169 ± 66	123 ± 46
34N84	5.7 ± 2.3	4.5 ± 0.7	182 ± 62	58 ± 12	146 ± 90	106 ± 62
<b>セシリア</b>	<b>5.9 ± 2.6</b>	<b>6.5 ± 0.3</b>	<b>210 ± 74</b>	<b>55 ± 4</b>	<b>144 ± 84</b>	<b>105 ± 60</b>
33Y45	6.2 ± 0.2	7.4 ± 1.9	250 ± 48	56 ± 5	181 ± 61	131 ± 43
Zcorn118	6.4 ± 0.9	4.7 ± 0.5	240 ± 39	55 ± 2	168 ± 56	122 ± 40
<b>32K61</b>	<b>5.7 ± 1.9</b>	<b>6.5 ± 0.7</b>	<b>227 ± 67</b>	<b>59 ± 8</b>	<b>164 ± 87</b>	<b>121 ± 61</b>

注：早生、中生とも同列比較で奨励品種との間に5%水準( )で有意差あり